

※ 以下の会議要旨は、町田市ホームページでも、「新しいごみの資源化施設の建設に関する説明会の会議要旨」として公開しています。

参考資料①

下小山田町内会説明会 会議要旨

開催日時：2013年6月15日(土) 19時00分～21時15分

開催場所：小山田会館

参加者：36名

《次第》

1. 新たな「ごみの資源化施設」について
2. 建設予定地の選定について
 - * 「町田リサイクル文化センター」（下小山田町3160番地）検討概要の説明
 - * 「上小山田西部エリア」検討概要の説明
3. 質疑応答 19:30～

〈配布資料〉

資料1：新たな「ごみの資源化施設」の建設地周辺にお住まいの皆さんと話し合いを進めます。

資料2：ごみ資源化施設建設NEWS（vol.4～6）

質疑応答

（市民）

家庭用生ごみ処理機のチップの分解力が落ちている。家庭用生ごみ処理機は10年以上経っている所が多く、修理も必要になってきている。それはどこに頼めば良いか。

（町田市）

付属品はまだ販売されているはずです。

（市民）

生ごみ処理機で3,000トン処理する計画があるならば、なぜ、リサイクル文化センターにチップを用意できないのか。

それから、生ごみ処理機の修理は可能であるが3万円から5万円ほどかかる。これを市が一括してやる気は無いのか。

（町田市）

家庭用生ごみ処理機については、普通の電化製品と同じなので10年くらいすると故障などは出てきます。

（市民）

有料でもいいからリサイクル文化センターに部品やチップくらいは用意してほしい。有料でもいいけれど、3万円から5万円もかからないくらいのことをやってほしい。

（町田市）

用意できるものは、検討していかなければならないとは考えています。

（市民）

今回ごみ焼却炉を3基から2基に減らすという事だが、修理のときはどうするのか。2基になってしまうと、片方を止めると処理できる量が半分になってしまう。ごみが溜まるのではないか。対策は考えられているのか。

それから、バイオガスは約60%がメタンと書かれているがそれ以外の40%はプロ

パンとかボタンとか出るのか。もし出るのであれば、メタンは空気より軽いから飛んでいくが、ボタンなどは空気より重いから溜まって爆発する恐れがあると思う。
(町田市)

法令に従い、焼却炉を停止して電気設備、ボイラ、発電機などの定期修繕を行います。それ以外に突発的な停止もある事を想定して、2基としています。また、町田市は多摩ニュータウン環境組合と広域連携をしており、突発的なときは、多摩清掃工場に処理をお願いします。ごみを溜めるスペースについても今よりも長い期間溜められる施設としたいと考えています。

次に、バイオガスについては、メタンを除いた残りの約40%は二酸化炭素です。微量に硫化水素などが含まれますが、硫化水素を取り除く脱硫設備を設置して処理します。発酵槽と脱硫装置の後の、ガスホルダーではガスホルダー内のガス圧を測定しており、安全装置が働きますので、漏れたままになることはありません。

(市民)

それは実験設備で確認するのか。

(町田市)

爆発する状況を作ることは難しいので、設備として実験することは考えていません。

(市民)

バイオガス化施設の実証実験はいつどのような形でやる計画を立てているのか。

(町田市)

実証プラントを造って、町田市で発生する生ごみがどのような状況になるのかということは、現在は考えていません。既に導入している自治体があり、その生ごみの組成や、町田市の組成調査を検討している段階です。町田市では何年も前から燃やせるごみの中の生ごみと、その生ごみがどういう状況で入ってきているかについて分析をしています。その分析結果をもって、他市の状況と比較して、実際の施設について検討していきたいと考えています。一例ですが横須賀市で実際に実証プラントを稼働させ、ガスをCNGの燃料にしており、結果的に出てくるものが確認できています。また他市で実際に稼働している施設で、まったく問題無くバイオガスが出ている事も確認しています。実証設備を造るには億単位の金を使うことになり、造って実証実験をやることで一過性のデータにしかありません。それよりも、実際にガスが出るかどうかについては、例えば、テーブルテストでもできますし、他市のデータとの比較調査でもできますので、先行事例と町田市がこれまでやってきた生ごみの分析結果を基礎データとしたいと考えています。

(市民)

今話を聞いていると腹立たしく思う。前回の説明会では「実証実験をする」と言ったではないか。もうひとつ、今日配られた印刷物は、前回とそっくり同じである。対象者が違うと言いたいのもかもしれないが、参加する多くの人たちは前回の説明会で心配なこと、配慮してほしいことを話したので、それを受けて資料を出してほしかったがそれが何もない。

私達は煙突を見て暮している、ゴミの問題で、私達は新しく住んだ者でそれほど苦労はしていないと思うが、やはり地元の皆さんがゴミ問題で苦労されてきている住民感情など、前回お伝えしたつもりであるが、それに対する答えが何もない。そういう事を考えたときに、説明会をやったということだけでそのひとつに今日の会もなってしまうのかと思う。

(町田市)

前回、町田リサイクル文化センターで開催した説明会では、清住平にお住まいの方にご説明をしております。

実証実験をしませんとは言いません。町田市の燃やせるごみ中の生ごみの調査をすることは実験であると思っています。ただ実証施設を建設することとは一緒では無いと思います。前回の資料と同じと言われたのは、その通りです。本日は下小山田町内会地区にお住まいの方にお出ししていますので、清住平の方には既にお出ししていますので資料としては同じです。実証実験の事が書いていないということは、たしかに建設ニュースにも書かれていませんが、今後、載せていきます。

(市民)

今、実証実験の話が出たのでコメントさせていただくが、確かに焼却炉の安全性については全国で何千基と実績があるので私は信頼しているが、バイオガス化施設については、まだ確立した技術レベルにはなっていないと思う。町田市の場合は、大型の生ごみ処理施設の実証実験は新しくやるべきであると思う。実証実験を他市が安全だから、町田市でも安全だというのであれば、原発と同じである。町田市の行政の方が肥料化なりやるべきである。そしてバイオガス化施設については、市民が安心して受け入れられるような実験をやっていただきたい。

私どものNPOでは、実証実験はやるべきであるという事を提案している。バイオガス化施設だけはそんなに高い設備では無いので、新しく設置するのであれば、地域住民の安心を得るためにも実証実験をお願いしたい。それから、これは資源化施設ということになっているが、生ごみでメタン発酵して残さは燃やすのであれば、資源化になっていない。資源化というのは、生ごみを土にかえして物質循環をさせるということである。これは物質循環になっていないので、資源化というカテゴリーには当てはまらないと思う。

それから、新しいバイオガス化施設も含めて環境負荷がどのようになっているのかお聞きしたい。とくに二酸化炭素発生量はどのくらい減るのかについてお知らせいただきたい。

(町田市)

一つ目は先ほどの質問の確認でしたので、それと同じお答えです。

二つ目の発酵残さが資源化にならないことについては、可燃ごみを機械選別して生ごみや紙ごみを取り出したものの中には、プラスチック等ビニール袋が混ざっているので、例えば脱水して乾燥させて空気で飛ばし、堆肥にすることは調査をしています。できる可能性については、他市で稼働中の施設を視察し確認しています。

二酸化炭素排出量は、町田リサイクル文化センターから約3万7千トン排出しています。ごみは4割削減するとしていますが、二酸化炭素は1万4千トンでおよそ半分にする予定です。

(市民)

2013年に町田市周辺まちづくり協議会が開催されると書いてあるが、どんな人たちがどんなことを検討するのか。周辺の地区の人がメインで考えるのでは無いのか。よその地区の人に言わせても、南地区の友達に聞くと、「それは小山田の問題だろう」という。その人たちが、私達のことなんて解るはずがないし、考えてもいない。その人たちの意見を聞いて何になるのか。

(町田市)

周辺まちづくり協議会は今年の2月から始まりました。メンバーは学識経験者が2名、

自治会町内会の地区長を代表された方6名です。

地区の意見は、別に地区連絡会があり、そこで地区の意見をまとめていただくことになっています。施設建設地は、町田リサイクル文化センターの他、資源ごみ処理施設が新たに2箇所合計3地区ありますので、それぞれの地区連絡会に持ち寄っていただき、施設周辺の議論をまとめていただきます。周辺まちづくり協議会というのは、今申し上げた町田市全体で考えていこうという組織で、各地区の要望を受けて、町田市全体の課題として考えていく組織です。

地区連絡会は町田リサイクル文化センター周辺の町内にお住まいの方の代表に集まっています。例えば、「この問題については町田市全体で考えてもらわないと改善されない。」といったご意見を議論していただく場が、周辺まちづくり協議会です。つまり、地区連絡会でいただいた提案を、町田市との直接のやりとりではなく、市民が出すごみなのであるから市民みんなで考えてほしいということで、周辺まちづくり協議会があります。市民ひとりひとりの意識を上げるためにこのような組織を作ります。

(市民)

バイオガス化施設に納得がいかない。循環型施設整備基本計画検討委員会でどんなえらい方が検討されてこういう結果を出したのかわからないが、建設ニュース6号のバイオガス化施設の概要で、ガスを利用しますと書いてあって、その利用量を見てびっくりした。収集車の1日31台分で、電気にすると一般家庭の1000軒分であり、1軒あたり10kWhで計算と書いてあるが、うちは40 kWh使う。町田市の人口は42万人くらいで、世帯数で18万世帯くらいだと思うが、30何億円もかけて大きな施設を造り、たった31台分の収集車のガスしか回収できないのか。すばらしい施設で二酸化炭素が半分になりますとか聞くと、私はここに住む住民としてバイオガス化施設は要らない。焼却炉を新しくするだけで充分であると思う。それだけのお金をかけても、税金は私達が払うのだし、30何億円かけて建てても、メンテナンスで毎年何億円とかかるのであれば、その分のお金を計算し、よく考えて行政は計画をしてほしい。一般廃棄物資源化基本計画通りに進めていると言っても、その計画自体が納得できないし、普通に計算してもリスクを背負ってまでやる必要があるのか。

(町田市)

バイオガス化施設に納得がいかないというご意見は、町田リサイクル文化センター一周辺だけではなく、他の地区からもいただいています。しかし、バイオガス化施設は、微生物がガスを勝手に発生し、エネルギーを造ることができます。そのエネルギーで災害時でも例えば周辺に供給することは可能ですし、焼却施設を動かすためのエネルギーを造ることも可能です。町田市として何をしなければならぬかと考えたときに、焼却炉を大きくして全量焼却することが果たしているのかということはごみゼロ市民会議2006年からずっと議論されてきています。2011年に策定しました町田市一般廃棄物資源化基本計画では、焼却量を削減することで、大きな焼却炉は造らないという事が基本となっています。このことはご理解いただきたい。

(下小山田町内会役員)

ちょっと待ってください。

今日は、下小山田町内会への説明会ということですから、下小山田町内会会員の質問を受けてください。他の自治会の方は後でやってください。まだうちの町内会は1人しか質問していません。

(市民)

私は副市長から、今回答申された中で、町田リサイクル文化センターではない場所に造ることになったと直接聞いた。そうしたら10日後位に連絡があって、この間話したのは変更になって、町田リサイクル文化センターに造ることになったと聞いた。どこまでご存知か知らないが、そんな大事なことが、言われて10日程度で変更されてこの場所に決まったという経過を説明いただきたい。

(町田市)

建設候補地としては、最終的に2箇所ありました。最後に残った2箇所について、町田市として将来計画を考えたときにどちらにしようかと考え、地元の御意見も頂きながら検討した結果、町田リサイクル文化センターに決定しました。正式に決定したのは2月4日の経営会議で、2月6日の市長記者会見で公表しました。

(市民)

二酸化炭素排出量が減るというお話があったが、ガスを燃やしてガスエンジン発電でも二酸化炭素が出るし、二酸化炭素排出量はごみの処理により変わるのでなく、どうやっても二酸化炭素が出るのは同じではないか。エネルギーに使えるのはいいことだと思うが、科学的な話では減らないのではないか。

(町田市)

二酸化炭素排出量が減るというのは、町田市全体で焼却しているごみ年間10万トンと6万トンに削減し、プラスチックを燃やさず資源化することで40%削減する、その数字が二酸化炭素に換算すると1万4千トンになるということです。

(市民)

2020年に運転開始と書いているが、そのためには40%減が達成されなければいけないのか。施設の整備工事が2017年に始まると書いてあるが、2016年度で40%減を達成しないといけないのではないか。そうでないと、小山田45年、50年とやってきたことに住民は納得できないと思う。小山田の人は真剣に考えているが、他の地域ではまったく関心がない。ならば、町田市としても2016年度に40%削減を達成させなければならぬと思う。もし、達成できなければ2017年度に工事を開始しない。つまり施設整備はやらぬ、造らない事を考えて計画しなければならないと思う。

(町田市)

2017年度までに減らし、それで2020年度を迎えるのは理想であり、そうしなければならないと思いますが、例えばプラスチックを焼却しているうちは減りません。また生ごみ処理機の普及については、個人の意識が高くなければ普及はしません。それを2016年度までにとということになると43万人近くいる市民全員がそのような意識を持つのは非常に厳しいと思います。

燃やすごみの中からプラスチックごみを減らすということについては、市内一部の地域で先行してプラスチックを集めて資源化したいと考えています。それをすることで市民が分別する意識が出てくると思います。

(市民)

40%削減を達成してから工事を開始するべきである。

(町田市)

今の焼却施設は、すでに30年稼働しています。2020年度以降に、建設工事となると老朽化している施設でさらに運転しなければならぬりますので、これは避けたいと考えています。絶対安全とは言うことはできませんが、安全装置が働くということは実証されている設備なので、速やかに建て替えたいと考えています。

(市民)

この地域が町田市の中で一番整備が遅れている場所だと思う。私が住む地区の集会所は小山田緑地の中に入っているが、東京都の緑地事業に協力しようということで、移転することに決めた。今度は町田市の土地に造らせてもらうということで、それはすぐにOKになった。もう契約は済ましており、現在の集会所は取り壊さなければいけないが、市が貸してくれる土地には残土が山ほど積まれている、新しい土地はいつごろ使えるようになるのか聞いても、一向に返事をくれない。何回も電話して、この間やっと多少の答えをもらった。この地域のことでは他よりも格段に違った、住民が喜ぶような予算をいっぱい使っていただくことが、この事業を進める第一前提であると思う。この地域から出た問題については、優先してやれるように市の中で特別窓口を作り、他の地区より優先して、この地区の要望について出来る限りこたえられるようにしてほしい。

この事業はどうしても作らなければならないものなので、他に決めることができないとしたならば、この地域に対してみんなが喜ぶことをいろいろやるしかない。それをやる意欲というか、行政のどこかに、責任もって良い答えを出す専門のチームを作って、この地域を他よりも良くしようとしてほしい。

そこに住んでいる人が他の人よりも、他の地域に恩恵を与えている地域なのだから、少なくとも唐木田に行くバスについては、いくら赤字路線であっても市として第一優先でやりますと、そんな答えさえ返ってこない。町田に出るよりは始発の唐木田でこの地域の人がスムーズに行けるよう、赤字でも本数をいっぱいいつでも行けるように、すくなくともそんなことはやって、こういう迷惑施設についてはこの地域で是非受け取ってくださいという説明をしてほしい。

(町田市)

地区連絡会で代表の方からそういう意見をいただいて、それをこちらに反映するのは一つの方策ですが、今言われたことは、行政の中でもできる話です。例えば環境資源部でこれをやるには言い切れないのも事実ですので、町田市の各部の部長クラスを集めて、事業推進本部を立ち上げました。いろんな関係部署が出てきて、今言われた意見は環境資源部が直接的にできることではありませんが、行政でできるならば行政でやろうという会を立ち上げました。その場で答えることができなくても、これから反映するような仕組みは作っていきたいと思います。

(市民)

説明はいくらでもうまいこと言えるけれども、そんな推進会議ができたとしても現実的な所で、集会所は私個人のことじゃないのに。いつになっても使えるようにしてくれないってこんなことがあるのか。現実に動いてくれないと理解できないから言っている。

(町田市)

地域のご要望については、例えば20年前に工場内に4号炉を作りましたが、その時にも、地元から20数項目の要望をいただきました。それにつきましては、少し時間がかかりましたが、昨年度すべて完了して、お約束を全部果たしたところです。これからも、さまざまなご要望をいただくことになるとと思いますが、とくにバスの問題については、地元の問題として理解しており、持ち帰って全庁的に考えていきたいと思っています。その他様々のご要望がおありでしょうが、地区連絡会でまとめていただいて、ご要望をお寄せいただきたいと思っています。とくに、今の集会所の移転先につきましては、状況を確認し、対応を連絡させていただきたいと思っています。

(市民)

周辺まちづくり協議会の件だが、町田リサイクル文化センター周辺と、下小山田と、町田市全体で考えられると思うが、町田市の事を何もわかっていない連中が集まって所に持ち出して、ごみ処理施設の問題を議論して、小山田地区から一人か二人出てきたって、結局は多勢に無勢になる。大して経験無いような委員、町田市の事をわかっていない学識経験者が出てきて、「小山田に金を使う事は無い」という意見が多分出る。私はこの問題については、小山田として皆さんのいろいろなご意見を聞いて要望を出すつもりである。

周辺の町内会の意見でも、小山田と考え方が違うと思う。小山田は、調整区域が多くて、下水など設備投資が全然できていない。そういう状況の小山田の意見と、町田リサイクルセンターの桜美林側の町内会とは考え方は違ってくる。意見をまとめて、街づくり協議会に持ち上げてなんて、そんなこと私ははっきり言ってやってもらいたくない。そんなことやるならば、この問題を私は蹴飛ばす。ああいう連中は信用できない。町田市が合併した町だってことさえわかっていないような連中に出てこられて、勝手なこと言われたのでは困る。

私は下小山田の意見を市長に直接取り上げてもらわないと、協力できない。町田市全体でごみの減量化は大いにやってくれればいい。下小山田に造るにあたって、下小山田地区にどういふものを還元しようかというときも、「下小山田にそんなものいらないだろう」といわれる可能性が出てくる。周辺まちづくり協議会の意見なんて私は聞きたくない。

(市民)

地区連絡会については、地域の住民の方々の意見を組み入れる会と言われたが、今日の資料を見ると、メタン発酵して、生ごみをどういう風にするとすっかり計画ができあがっている。もしこの地域の人が、バイオガス化施設は危険だから、実証実験してくれと言ったら、それをきちんと受け入れられる委員会か。そうでなかったら、こんな委員会作ったって、単にシンボルとしてあるだけで、何ら下小山田の意見を受け入れる委員会にならないと思う。前の検討委員会のときもそうであった。だから会長が辞任されたということになった。下小山田地域あるいは上小山田地域は、こういう施設を持っていて特別な状況にある。だから、私はバイオガス化施設はできるだけ分散化して、もしメタン発酵やるならば、メタン発酵は小さくてもできるのであるから、南地区に一つ造りなさいと、そういうことも実証実験をやりなさいと言いつけている。しかし、そういう事はやらないで全部一極集中するならば、地区連絡会を作っても意味が無い。かえってこういう会をつくりましたからという行政の口実にはなっても、具体的な地域の住民の意見を取り入れることにはならないと思う。

(町田市)

検討委員会で下小山田のことを理解していないととらえられたことは、会長がこの地域に思いが強いことから感じました。そういう会をまた造ることは考えていません。それから、バイオガス化施設は、危険だからやめてほしいという話になっても、そこについては、町田市として方向性を出したものですので変えることはできません。ただし、規模や中身について、基本設計をこれからしていく中で、地区連絡会の御意見をいただくことは当然の事だと思います。ただ、バイオガス化施設を作らないかと聞かれると、造ります。そこは町田市として43万人の生活を円滑にするために、市の使命であると思っているので、これに付いては市長が方向性を出していますので、申し訳ありませんが方向性は変わりません。

(市民)

地区連絡会、周辺まちづくり協議会は作ってもらって、実際に下小山田地区に造るにあたっての対策については、下小山田地区住民だけを対象にした協議会でまとめたい。周辺を入れるとややこしいことになる。市街化区域の整備されたところではなくて、下小山田地区の意見だけを聞く連絡会を特別に作ってほしい。下小山田地区は周辺とはちがうのだから。

(町田市)

周辺まちづくり協議会によその者を入れてもしょうがなく、腹立たしきを感じるということでしたが、逆に地域の要望を町田市全体の課題としてとらえていただく場としたいと考えています。

(市民)

委員として出ればその地域のことしか言わなくなる。一緒じゃないということを理解してもらわなくちゃ困る。下小山田は、忠生や根岸と同じじゃない。下小山田の住民には市長に説明してもらいたい。下小山田は特別なことをやらなくちゃいけない地区である。

(市民)

漁業補償だって原発補償だってその地区だけである。そういうことをあなたは考えたことがあるのか。地域の人のことを考えなさい。

(町田市)

周辺町づくり協議会の趣旨は、全体の場に持って行って意見を消してしまおうというものではありません

(市民)

他の地区から要望がたくさん出てきたら小山田のことができなくなる。

(町田市)

地区だけの問題では無く、町田市全体の課題として捉えていきたいということを町田市全体にアピールしていきたいと考えています。

(市民)

全体の立場に立って考えなくていい。施設を作る地元に対してどういうもの作るということだけを考えてくれればいい。

(町田市)

行政としては、市民全体の同意という事で進めていきたいという思いがあります。

(市民)

それでは建設は反対！

(市民)

下小山田に金をくれとか言いたくないが、原発のところなんか交付金をもらっている。範囲が難しいとは思いますが、固定資産税を減額とかそういう事を考えてもいいのではないか。施設が造ることは決まっているのだから、ゼロにすることはできないにしても、10%、20%減額することくらいはしてほしい。税金の担当部署にできるかどうかは別の問題として、言っていたきたい。先ほどの人の意見を聞いていると、そういう事もありうるのかなと思った。

(町田市)

固定資産税の見直しについては、一般廃棄物資源化基本計画を作る段階で、そうした施設を造る周辺にはそういう事を考えたらどうかという議論も実は出ました。その際、今おっしゃったように具体的に、どのくらいの範囲にするのかということ

ろで、結局はまとまりがつかないのではないかと断念した経緯がある。但し、ご要望として、税務の方にはお伝えします。

何がこの地域にとっていいのか、是非ご意見を出していただき、庁内で公表していきますので、その中で関係部署には当然働きかけはしていきたいと考えています。組織として、下小山田だけで動きたいというご意見については、持ち帰って調整しますが、市では地区連絡会と周辺まちづくり協議会をベースと考えています。

(市民)

3点ある。まず、一つ目、私はごみゼロ市民会議に参加したが、その中では、小山田だけに集中していた施設を町田市内地域ごと、たとえば鶴川、玉川学園、町田のような、大量の飲食店があったり、人口密集があったり、それぞれの地区ごとで処理できるような分散化を考えていたので、今回分散化と聞いて喜んでいました。しかし、何故か相原と小山田と南という人口密集地以外の地区に何箇所か造るだけで、さらに生ごみについては結局小山田に集めて分散化とすることになり違和感があった。分散化というなら、各地域ごとの処理のような、検討が今まであったのか、または今後する予定があるのか。

二つ目に、プラスチックについては、3箇所ということになっているが、町田市で行政回収する以外に、市内全域のスーパーでも、発泡トレイ以外の透明トレイ等も行われるようになると、かなりのごみ減量になると思う。町田市で収集する以外の方策について検討されているのか。鶴川でもペットボトルと空き缶については、ポイント制にして商店街が集めた人に買い物券を与えるといったステーションのようなものがある。このようなものを分散して各地に作って回収するといった検討はされてきたのか、または今後されるのか。

三つ目は、小山田の焼却施設が老朽化して危ないと強調されているが、広報を見ている限り、そういった危機感は伝わってこない。もし、危機感があって、施設をどこに造るにしろ、2020年までに40%削減を絶対やるということであれば、例えば生ごみ処理機は予定ほど広がっていないと思うが、それを広げるための工夫、例えば各地のお祭りでPR活動をしたり、あくまで例だが町田市市長が生ごみ処理機を背負って各地の祭りに来るくらいのPRをやって生ごみ処理機を広げる活動や、今まで広がらなかった原因も含めて検討するなど、2020年までに40%削減を達成するような気があるのか。

(町田市)

一つ目にご質問いただいた分散化の話ですが、ごみゼロ市民会議の成果を受けて分散化という議論をして参りました。分散化して行こうと進め、場所の選考にあたりましては、町田市全体を白紙の段階から絞り込んでいった経過があります。どうして3箇所なのかということですが、多数造った方が、ごみを出す方の意識は確かに高まるということはいくつもわかりますが、だからといって、それをたくさん造りますと、その施設それぞれに人も設備も付き、費用も当然かかります。そうしたことで、数については限定した施設数しか造れないということをご理解ください。いずれにしても、分散して意識を持っていただくということにつきましては全く変わらない方向で考えております。

二つ目について、鶴川の団地でエコポイントを利用してペットボトルを回収しているということは、市の方でも承知しているところです。ただ、新しいスーパーでこういったことが行われているかということについては、市としてもまだリサーチしていかなければいけないと思っています。これからやる事業のひとつにあるので

すが、エコ宣言制度といいまして、ごみだけの話だけではありませんが、事業者にリサーチをかけながら、環境配慮を行っている事業者のエコ宣言をしてもらい、取り組みを紹介し、環境配慮型の事業活動を促進します。また、冒頭にも小型家電のお話しをしましたが、7月1日から各市民センターや町田リサイクル文化センター、リサイクル広場でも回収を始めてまいります。市内大型家電量販店等にもお話しをしながら、事業者と一緒にごみ減量を考えていきたいと考えています。

三つ目についてですが、焼却炉はお金をかければ炉はこれからも継続して操業は可能です。古くなればなるほど直す箇所が増え、お金もかかってきます。それから、排ガスの基準をもっと下げたくても、今の焼却施設は30年前の基本設計なので、厳しい規制を課せられたときにクリアできません。今の基準で何十年も稼働するのであれば、毎年数十億の金をかけながら運転することは可能です。

お金をかけずに、厳しい基準を作って、コンパクトな設備を早く造りたいという方向性を町田市は出しています。危険だから建替えたいのではなくて、環境負荷を抑えて、安全性を高めるということで早めに新しい設備を造りたいということです。(市民)

町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会について、私もずっとひっかかっていたことがある。ごみ処理施設を新しく造るときに、市のトップは何を考えるか。候補地をある程度イメージできないと進められない。実際に検討委員会で何をしたかということ、「点数付け検討委員会」であった。102点満点の91点は町田リサイクル文化センターが最高得点を付ける項目になっている。それから、分散化とかいろんな意見があったけれど、私がずっと思っていたことは、町田市のトップがこうしたいと思う事を協議会なり検討委員会が実際には町田市民の声として作ってしまった。小山田に造るという形で造られたものである。だったら、市長なり副市長が来て、「ここしかないからここに造ります。よろしくお願いします。」ってそっちの方がよっぽどすっきりしていた。次の周辺まちづくり協議会が一番心配である。いろんな地区の人を集めて、地元の意見ではなくて、市全体の意見はこうなんだというって不利なことを小山田に持ってくる。小山田の意見は反映させない危険性は十分にある。そういう意味では、協議会の構成は、地元以外の人はいらない。これは今までの候補地決定の流れから言ってそう思う。

(町田市)

検討委員会の選定項目について、ここに造るための項目と言われましたが、それは日本全国、最近造られた施設も見てくださいとわかりますが、基本的に同じです。項目は客観的にしか作ることはできません。それは市長の意見として捉えた物として議論したと言われると違うという事だけのご理解ください。

(市民)

「リスクを公平に負担する」という項目を作ったら、こんなことにはなっていないはずである。

(市民)

地元の要望を真剣に考えてくれるのは大前提だが、それよりももっと最初にここに造るのだとしたら、市としてこういう事をやりますという事を事前に出してもらえばよい。それに対し、こういうところが足りないということを地元が補足するくらいで、市としては、地元「今だけやるからやらせてください」という事を前向きに出す事が先決である。それを何にも出さないで、「これだけ造らせてください。皆さんの要望を聞きます。」ではなく、この地域の要望は聞いているであろうから、

それを市には出していただきたい。

(市民)

地区連絡会、また全市的な協議会にもっていくと、やはり下小山田の意見が薄まってしまう懸念がある。私達町内会としては、施設整備の計画については今後私達が考える様々な地域の要望を、市に丸飲みしていただいて基本合意しようという意見を私は持っている。また町内会の会員の人たちの意見を聞いてもやはり今まで50年間ごみのまち小山田で来て、また何十年というごみの山小山田が続く。先ほどリスクの分担、公平負担とも言われたが、まさにそのことを、これから市と下小山田だけの会議の中でやっていきたいと思う。下小山田町内会は町内会のみで連絡会をしたいと思う。今後、他の町内会の方々はここには入れないという形でやっていきたいと思う。これは要望である。

上小山田町内会説明会 会議要旨

開催日時：2013年6月29日(土) 18時00分～20時15分

開催場所：上小山田コミュニティーセンター

参加者：53名

《次第》

1. 新たな「ごみの資源化施設」について

2. 建設予定地の選定について

*「町田リサイクル文化センター」（下小山田町3160番地）検討概要の説明

*「上小山田西部エリア」検討概要の説明

3. 質疑応答

〈配布資料〉

資料1：新たな「ごみの資源化施設」の建設地周辺にお住まいの皆さんと話し合いを進めます。

資料2：ごみ資源化施設建設NEWS (vol.4～7)

質疑応答

(市民)

この地域は里山としての環境が残っている。特に、旧上妻病院付近は水が出る。大きな開発や土壌改良、地盤改良などをすると地下水が枯れて虫が死滅する可能性がある。施設ができ上がった状態の環境が人体に影響ないとか、自然にやさしいというより、建設段階で環境が保たれるように計画してほしい。

家族が喘息のため上小山田に越してきた。施設による影響がないのかははっきりしてほしい。また、具体的な建設場所をはっきりしてほしい。

(町田市)

場所が明確になる前にエリア内の環境を調査します。また、処理は全て建物内で行い、外に影響がないよう脱臭設備、排水設備を整えます。類似施設は、周辺の多摩市、八王子市、相模原市で見ることが可能です。RC造で箱型の構造で環境に影響がない状態で操業しています。大気、臭気、排水等厳しい基準があり、クリアしないと操業できません。クリアしながら操業し定期的に報告をします。広報やHPで公表します。さらに地区代表の方々に現場を見てもおうと考えています。

建設場所が具体的に明確になった段階で説明会を開催します。

(市民)

建物の図面などは一切できていないのか。

(町田市)

これから基本設計をしていく段階です。

(市民)

今の説明や質問を聞いていると、そこにできる前提で話をしている気がする。過去にリサイクル内に新しい施設を造ろうとした時に多摩市の住民の反対運動で頓挫した経過があると思う。南多摩斎場は半分が八王子で、そのすぐ隣接地であり、同じことが起こりうる可能性があるのではないか。

こういう施設ができると不動産評価に影響ある。要するに安くなる。それへの対応は何もない。

また、こういう施設は、土壤汚染を起こす対象施設と言われている。土壤汚染というのは、一時的に測定した際に基準内であっても蓄積されていくものである。どうして小山田地区にこういう施設が集中しているのか。なぜこの地域でやらなければならないのか。

(町田市)

小山ヶ丘の廃プラ施設の件については、完全に町田市ミスです。順番が違っていました。こういうように中身を説明し、それからこの場所にと話をして、その後、建設という話をすべきだったものです。今回、まずは町田市内の皆さんに説明させていただきたいという手順を踏んでいます。

土壤汚染の蓄積の件について、出る前に、出さない方策を検討します。施設ができた後の影響のシミュレーションをします。稼働後も分析します。そこに蓄積された傾向があれば改善していきます。改善できなければ操業できません。

検討委員会は、一般公募、町内会・自治会代表、学識経験者等で構成し、施設を建設する場所としてどこがふさわしいかについて、およそ2年間検討してきました。候補地として200ヶ所以上の場所から、11,700㎡の土地を確保でき、道路、環境負荷等、色々な観点から客観的に選んできました。「結論ありき」でやってきたのではないことは理解願いたい。

一般的には不快施設ができると評価が下がることは理解ですが、極力影響を抑えることによってマイナス評価は抑えられるのではないか。道路整備の計画もあり、まちづくりを総合的に考えることで計画を進めていきたい。

(市民)

西部エリアは、JRのリニア新幹線、小田急線の唐木田から相模原への乗り入れが計画されている。近くには鶴見川の源流があり、水の汚染の問題もある。まちづくりの話をしたが、こういう施設を造って、まちづくりというのは理解できない。

市民は公平に負担すべきなのに、鶴川にはこのような施設はない。危険なものなのであれば旧市役所跡地に造ってもらいたい。

今のリサイクル文化センターの煤煙が家のベランダに飛んできた。近くでは、ダイオキシンで畑ができないと聞いている。ずっとここでやってきていて、また小山田に造るのか。一方的に決められて納得するわけにはいかない。

(町田市)

中町の旧庁舎については、更地にし、芝生広場にしてイベント活用する予定です。商業地域の用途で、工場は建てられないということではずしています。鶴川地区について、候補地としていくつか上がっていたが、選定の過程で落ちています。成瀬、鶴川については下水処理場があり、そういう意味では何もないわけではありません。

あくまでも客観的な条件、また、地域の活性化、まちづくりの観点で検討しています。市が一方的に決めているわけではなく、検討委員会には各エリアからいろんな人に出ていただいて選定していることを理解願いたい。

小田急線について、まだ具体的計画は見えていません。進んだ段階で説明する場をつくっていききたい。

リサイクルからの煤煙に関して、煙突からの排ガスについては24時間連続して測定しています。煤煙が出たら炉が停止する仕組みになっています。

ダイオキシンは、周辺環境は年4回、炉排ガスは各炉年2回ずつ測っています。影響はゼロではないが、土壤について測定をしており、基準はクリアしています。そうでなければ操業ができません。

(市民)

ピンクの点線付近に住んでいる。湧き水が出ており虫が出ている。背中に八王子のバイオ施設がありすごく臭い、北には多摩の焼却施設、西を見れば下小山田の焼却施設があり、また家の近くにプラスチックの処理施設ができることになるとずいぶん小山田にはそういったものが集まってしまったなと思う。

計画で選定したということはわかるが、実際に造るかどうかは別だと考えている。プラの施設は、有害な物質が出る。杉並病は、原因がまだわかっていない。チラシだと簡単に有害物質は出ない、安全だとあるが、杉並や寝屋川の例があるのに、市は楽観視していると思う。子どももおり、有害物質が出てこないか心配である。

チラシにはバイオも臭いが出ないと言っているが、八王子の施設は、近くに住んでいると実際にすごい臭いである。有害物質などの問題で、安全なのか。原因がわかっていないものをどう処理するのか聞きたい。

(町田市)

八王子バイオマスエコセンターは民間の施設で、ただの倉庫のような建物内に生ごみを入れ、発酵させて乾燥し堆肥にしています。臭気対策について、改善・改良しなければ操業ができないと思います。町田市が計画しているものは、倉庫ではなく、鉄の茶筒の中で処理するようなもので、生ごみから空気を必要としない微生物がガスを発生させます。臭いが出る場所がなく、臭いは閉じ込められたままで、残さは空気に触れないで焼却炉に入ります。同じバイオマスという言い方をしているが基本的に全く構造が違います。

プラスチックの有害物質の話について、どんなガスが出るのか民間のプラスチック圧縮施設を借りて2010年6月に実証実験を行っています。市内6箇所で協力いただき、家庭から出るプラスチックを袋に入れ回収し、市民の目の前で圧縮する実験を行いました。圧縮し、四角いベールにしました。実験の結果については、ベンゼン、トルエン、スチレンなどの物質が出ました。どれくらい出ているのか数字の結果も公表しました。その中で基準を超えたクロロホルムについて、その原因は、漂白剤のボトルの中に残っていたものが圧縮した際に反応して発生したというところまでわかりました。基準を超えたものもありましたが、基準を超えないものがほとんどです。出てきたガスをどうしたらよいかを考えて基本設計に反映させていきたい。活性炭、光脱臭等色々あるが、最新の設備でもっと数字をおさえようと考えています。そのしくみが明確になった段階でもう一度説明会を開催させていただきます。

杉並、寝屋川の原因について、全容が解明されたわけではないものの、杉並については、施設からの排水の影響とも言われており、また、寝屋川については、プラスチック由来だけではなく、他の物質と化合して出ている可能性が指摘されています。そういうことが実際に起きるということを考えて、新しい施設の安全性を高めていきたい。

(市民)

ガスが出るのはわかったが、もっといっぱい出ている。未知のものが影響しているのではないかというのが怖い。大阪市民が8年も裁判で争っても、造ったものは仕方がないということで勝てない。分からないものは処理しようがないということがあり、施設ができてしまうとすごく心配である。

(町田市)

プラスチックの圧縮・成型の途中で、他のものを加えたり、混ぜたりしなければ、未知のものは出ないと考えています。市では、その範囲内で作業を行います。

(市民)

他のものとは何か。

(町田市)

プラスチック容器などの中に中身が入っていて、それが金属類や、異物だったりした場合に他のものになる可能性があるということです。

(市民)

小さいライターなども選別しなければならないと思う。市販されている農薬の袋なども水洗いしてから圧縮しないとすごくまずいのではないかと思う。

(町田市)

圧縮の前段で手選別します。その段階で人が目視をして取り除くことになります。仕組として確認行為があります。

(市民)

そういうのは絶対リスクがある。40%削減ということは無視して、小山田の住民の健康上のリスクを考えるなら、新しい焼却施設へ持って行って燃やしたほうが影響が少ないのではないか。

(町田市)

燃やした場合、数万m³の排ガスとして出さなければなりません。そちらのほうが、何十倍、何百倍もリスクがあると思います。安全な状態で資源化します。安全ではない状態のものを人間の手で取り除きます。そのほうが小山田全体の人のリスクとしては少ないと考えています。

(市民)

健康被害が発生したときはどうするのか。

(町田市)

基本的に操業しません。原因が明確になり、改善しなければ操業できません。

(市民)

大阪などの例では原因、可能性を認めない。ほんとに大丈夫かと思う。

(市民)

道路について、通学路になっており、バスも通る。施設ができるとなると搬出入でトラックが頻繁に通るのではないかと心配している。小山田のバスの折り返し所から平、池の平、種入の付近は歩道がないところもあり危険である。地域にはお年寄りもたくさん住んでおり、バスが通り、トラックが通り、多摩市や八王子市などの通過交通もある。スピードも出される。小山田のハナミズキの丘から合流されることも危ない。歩行者の安全確保についてはどう考えるのか。

(町田市)

安全性を最優先としてルート検討も含めて検討を進めていきます。

施設を上小山田西部に造ったときに、子どもの通学時間に多くの車が走るようになってはなりません。道幅が今のままでよいのか、実際にどこを通過して入ってくるのかの系統も含めこれから検討していきます。生活している人のパターンがあり、その動線上に収集車が増えてくることになれば影響があるので、どういう仕組で収集するのか検討していきます。影響を小さくすることがポイントと考えています。

(市民)

スケジュールをみると、基本設計が今年度ということは、大体の位置も決まってきたのではないかと。アセスのほうの事前の説明会は別に行われるのか。

建設地について、検討委員会では客観的に選定をしてきたというが、その内容は開示されているのか。

道路整備に関して、今、尾根緑道の整備計画があるが、この計画の一環か。

(町田市)

現段階では、オレンジ色のエリアの中でリニア新幹線のルートや道路整備が現段階ではまだ白紙の状況であるため、画として書ける状況になった段階で説明会を開催したい。それをベースに基本設計に入ります。アセスは2年から2年半かけてやっていきたい。

検討委員会の検討の経緯や結果についてはオープンにしています。ホームページや市政情報課に冊子があります。道路については、新たな道を造りたいと考えています。

(市民)

リレーセンターみなみはプラスチックを5 t 処理すると決まったようだが、カンやビンは処理しないのか。上小山田だけか。相原は民有地なので大きいものを造れないのではないかと。ほとんどの処理を上小山田でやることになるのではないかと。

(町田市)

ごみの中継基地であるリレーセンターみなみは2,000㎡ぐらいしかないので、プラスチックの圧縮梱包施設ぐらいしかできません。相原地区については民有地ですが、複数の地主さんの所有地にかかる区域を考えており、上小山田と同じ規模で考えています。何か一方の施設でトラブル等があったときに、代替性を持たせる意味もあります。

(市民)

ごみの分別回収について、ペットボトルなど、民間委託すればよいのではないかと。わざわざ税金を使って造らないで、委託すればこの地区に造らなくても良いのではないかと。家電などについて、希少金属を民間が買い取っている。なぜそういうものを利用しないのか。

(町田市)

ペットボトルに関して、町田市では集めた半数を独自ルート（国内）、半数は容器包装リサイクル法のルートとしています。売ったほうが少しは高いが、安定処理の見込みの保証がありません。その危険性を避けるため半分半分で行っている状況です。

小型家電について、4月から小型家電リサイクル法が施行され、ようやくルート化されてきました。今までは不燃ごみとして破碎をし、金属類を回収し、プラスチックについては燃やしてしまっていました。そうしたものをルートに乗せ、希少金属を回収し、国内で利用しようという方向性が出たのでそうしていきます。

民間委託の件に関して、費用対効果は考えていきます。焼却施設の運営や収集の民間委託も検討しています。設計に織り込んでいきたい。

(市民)

今の話だが、残りの50%でなく、そのうちさらに何割かは民間委託することで、小さくできる。鶴川処理場跡地などは検討されていないのか。面積はそこそこあり、場所的にもそれなりの場所である。

(町田市)

土地は町田市のものではないため、はじめから候補地として挙がってくることはありませんでした。217箇所から1万㎡確保可能なところを操業しているところを含めて検討してきました。

民間委託の件は進めていくべきだと思います。民間委託を進めれば施設の規模が小さくなるだろうということです、逆に委託を継続できなくなった場合に危険があります。2020年度に向けて、市として資源化する必要がある最低の量を処理する規模を確保する必要があります。

(市民)

ごみ処理施設候補地選定の地図を見ると、芝溝街道から北に偏っている。200何箇所か候補があったと言っていたが、現在のごみ処理場、多摩の清掃工場、火葬場もあるので最初からはずしておくべきだったのではないかと。市の土地もあり、他の地域より人口も少ないから、説得しようと考えたのではないかと。道路について、北部丘陵が関係して図面も作っている。リニアが来る等の理由をつけてもうちょっと止めようという話になっているらしい。

(町田市)

忠生579号線については、上小山田町のまちづくり協議会と話をしながら検討してきた経過があります。地権者の方の中で賛同をいただけない部分があって止まっています。

(市民)

地権者の同意があれば造るのか。

(町田市)

JRリニア、資源化施設の位置等が示された時点で考えていきます。

(市民)

上小山田町内会で反対の署名を出したと思うが、どういう処理したのか。

(町田市)

いただいた内容は市として理解しており、担当部署で管理しています。市として重く受け止めています。

(市民)

一人ひとり反対者に説明して回るのか。あなた方はそういうところに進んで住もうと思うか、桜が咲いて蛍も飛んで、そういうものが保護されて安全だからということで、住もうという気になるのか。

(町田市)

周辺への影響を極力減らしたいと考えており、迷惑をかけないように進めて行きたい。

(市民)

国際標準規格のISO14000、9000等があるが、適用するのか。

(町田市)

認定を受けるかどうかの方向性はまだ出していません。これから検討する予定です。

(市民)

検討委員会で217箇所の候補地のうち、上小山田、下小山田は何点候補に挙がっていたのか。二番目に良かったところにならなかった理由は何か。

(町田市)

217箇所について、5,000㎡以上の市有地リストの中から選びました。5,000㎡では施設を造るのに小さいということで7,500㎡以上確保できる場所173箇所に

絞りました。その中から対象として災害上の危険箇所、文化財保護の観点などから除外し、法的にクリアできるところ17箇所に絞っています。選定のプロセス等については、ホームページに掲載してあるので、ご覧いただきたい。

(市民)

説明会はやるのか。画が描ける段階とっていたが。

(町田市)

決まりましたということではなく、こういう風にしたいという状況で説明したい。秋ごろになると思います。

(市民)

上小山田西部エリアは、今のところ、候補地であり、まだ決定ではないのだということでしょうか。

(町田市)

場所としては上小山田西部エリアに造りたいということです。

(市民)

小山田は、ごみを出す量が少ないため、始めから建設地からはずすべきだ。いっばいごみを出す地域に造ればぜんぜん問題ないのではないか。

(町田市)

いちばん多いのは市街地ではなく、団地エリアではないかと思います。生ゴミ処理機の普及等により40%削減に向けた減量策はやっていきます。しかし、施設の建設場所については、本日説明した4箇所に考えています。

(市民)

人口は減っていくので小さくし、別のところに造るべき。納得できない。造るのであれば施設周辺地域の住民の税金を無料にすべきだ。

(町田市)

小さい施設を造る。意見があるのは承知しています。

(市民)

説明会の時間は気にしないでやってほしい。2時間でも3時間でもやらないと不満がたまる。

(町田市)

画が描けるような段階で、決定前に時間に関係なく説明会を開催します。

(市民)

市役所の跡地の面積はどれくらいか。

(町田市)

1万㎡ぐらいで、用途は近隣商業地域です。

(市民)

用途変更すればよい。市ができるはずだ。

(市民)

今日の説明で、上小山田は、この場所に施設を造ることを承認したという解釈か。

(町田市)

承認したというふうには解釈していません。今の状況の説明をしたということです。

(市民)

白紙撤回もありうるということか。

(町田市)

そうではなくて、場所について言えば、エリアは以前にも説明した場所です。

(市民)

場所については上小山田に造るということで、そのことは決定事項で、そのことを今日説明しにきたということか。

(町田市)

場所についてはそのとおりです。ただそこにどういういろんなものが加わってくるかという説明については現在の段階ではできないということです。上小山田の西部エリアに建てたいと考えているということだけは話させていただきました。

(市民)

この場所に考えているということと、決定したということとは違ってくると思うがどうなのか。

(町田市)

上小山田の西部エリアに施設を建設することについては決定です。ただ、エリアの中のどこにどう造っていくかといった細かいことはこれから改めて説明したい。

(市民)

それでは、上小山田西部エリアにできるということを報告に来たのか。このエリアに造ることに決定したので、皆さん納得してくださいということになる。

(町田市)

ここに作るという話は前にもさせていただいています。上小山田西部エリアに造るということは2月の時点で決定して、公表し、議会にも説明をしました。

(市民)

話をすることと決定とは違う。どこで決定したのか。

(町田市)

2月4日に市の経営会議で組織として決定しました。その後、議会へ説明し、2月6日に記者会見を行っています。

(市民)

説明した段階で、住民への説明などについて議会では意見は出ていないのか。議会に説明する前に住民に説明に来るべきではないのか。

(町田市)

説明については、上小山田地区については、町内会の役員の方に話をし、その後皆さんに集まっただき方向性については話をさせていただいています。決定という言葉についてですが、2月の時点でこのエリアに建設するというところについて、市としての方向性を出しているということを決定的なものであればそれは決定です。ただし、中身の道路付け等は決定していません。

(市民)

議員はなんと言っているのか。

(町田市)

議員の発言については私どものほうでお答えできません。

(市民)

施設の場所について、検討の余地はあるのか。

(町田市)

エリアの中で市として方向性を出しています。

(市民)

芝溝街道から上に偏っている。小山田の人がおとなしいからか。

まず、小山田エリアはずすべきだったのではないか。それから面積を小さくしても

他のところに分散しましょうというのが筋だったのではないか。住民の気持ちを考えればそれがいちばん良かったと思う。多摩の清掃工場や火葬場もある。

(市民)

検討委員会のポイントの重み付けも間違っている。上小山田に不利なポイントだけだ。

(町田市)

ウエイト重み付け、他の場所に比べ重く位置づけています。感情を抜きにして数字上で出すところになりました。検討委員会には市民の方も入って進めてきました。

(市民)

検討委員会のメンバーには、小山田の方もいたのか。

(町田市)

入っていました。

本日は、エリアの中に建設することを伝えたかった。コンクリートされる前に再度説明します。

検討委員会については、ホームページを参照願いたい。また市政情報課には冊子も置いてあります。

小山田桜台団地内説明会 会議要旨

開催日時：2013年7月16日(火) 19時00分～20時30分

開催場所：小山田南小学校

参加者：50名

《次第》

1. 新たな「ごみの資源化施設」について
2. 建設予定地の選定について
- * 「町田リサイクル文化センター」（下小山田町3160番地）検討概要の説明
- * 「上小山田西部エリア」検討概要の説明
3. 質疑応答 19:30～

〈配布資料〉

資料1：新たな「ごみの資源化施設」の建設地周辺にお住まいの皆さんと話し合いを進めます。

資料2：ごみ資源化施設建設NEWS (vol.4～6)

質疑応答

(市民)

4月に北海道から引っ越してきた。建設の状況がわからないので質問する。今回の説明会は、もうここに造ることが決まったことの説明か。

(町田市)

現在は第三次選定を終え、その結果を市で整理し、今年2月に市長から具体的な場所をご報告しました。先ほどの説明では整備内容についてお話ししました。

(市民)

基本的に装置の説明であって、たとえば福島原発とか沖縄と同じで、ここに住んでいる住民はそれに甘んじて受けなさいと言うことであって、後は単なる装置の説明会の実績を作るということか。

バイオガスはどこでもやっている。しかし、し尿処理は単純だが、生ごみは住民の精神がかかっている。中にはいろんな薬品を勝手に入れる人がいる。そうすると微生物が非常につらい。下水道や単純なものはバイオガスで扱いやすいが、生ごみは苦勞する。いかに住民が生ごみだけを分別できるかにかかっている。うまくいくかどうかは非常に問題である。いまさら言っても仕方が無いが、状況は分かった。

(市民)

4号焼却炉を増設するときに、小山田桜台団地住民を対象に小学校で説明会があり、その結果、住民の30%が反対であったが70%が賛成であった。その折にダイオキシン類の問題があり、それからダイオキシン類の測定結果を送ってもらった。小山田南小学校にも測定器を設置してもらった。つい最近では、盛土工事について打ち合わせをさせていただいた。その後、説明の中で、リサイクル文化センターは廃止するという話があり、建物は一切造らないと言われた。リサイクル文化センターは廃止するので安心してくださいと言われた。今後一切施設造らないといった約束はどうなったのか。

(町田市)

4号焼却炉は平成6年に稼動した一番新しい焼却炉です。そのときに、小山田南小学校の中に、ダイオキシン類は測定していませんが、環境大気測定器も設置させていただきました。

今でも継続測定しています。最終処分場の盛土工事の説明の中で、「これ以上埋めない」とお話ししましたが、リサイクル文化センターの焼却施設を廃止するというお話については、協定書や協議書を確認しましたが記載されておりません。町田市最終処分場への埋め立ては平成15年に終了しています。現在、最終処分場閉鎖に向けて作業をしていますが、そこにはごみも、焼却灰も入れず、廃止に向けて事業を進めています。

リサイクル文化センターの焼却施設ではなくて、最終処分場の敷地内については、廃止に向けて作業を進めています。

リサイクル文化センターの隣にある、現在、ビン・カンを選別している施設には、以前は焼却施設がありました。その近隣には、法律で最終処分場としての構造基準や維持管理基準が定められるより以前に、何でもかんでも埋めていた旧埋立地があります。これは、基準ができる前から使っていたので、焼却施設で燃えなかったものや、おそらく一部家電製品もあるでしょうし、プラスチックなども埋まっているのではないかと思います。

旧埋立地については、新しい施設の整備にあわせて掘り起こして、状態を確認し、何がどこにどのくらい埋まっているかまず調査を行い、安全な状態にする予定です。現状でも、地下水への影響について町田市最終処分場周辺環境保全協議会で確認しております。

(市民)

そこはもう手を加えないと説明があったが。

(町田市)

埋めたものから地下水への影響があるのも事実です。将来そのままにしておくことがいいか

どうか。悪いものが埋まっている場合、対策をとるのが当然と考えています。

(市民)

だいぶ以前、ペットボトル圧縮梱包施設を町田リサイクル文化センターに造るのかどうか、近隣町内会で、説明会でのやりとりをして、やむを得ないとの結果になったが、町田市が「南に行く。」と言ってペットボトルの話は立ち消えになった。ペットボトル圧縮梱包施設もこの中に入ってくるのはどうかと思う。

(町田市)

ペットボトル圧縮施設ではなく、プラスチック圧縮梱包施設のことと思います。資源ごみ処理施設のペットボトル圧縮梱包施設は、リサイクル文化センターの中には造りません。新しい資源ごみ処理施設である上小山田、相原地区、リレーセンターみなみに運搬して処理します。

(市民)

容器包装プラスチック、豆腐のパックとか卵のパックとか、いつから新たに資源ごみにできるのか。もう少し早くできないか。私は7年前に他市から引っ越してきたが、他市ではそのとき既に分別回収されていた。プラスチックも生ごみに入れなければならないと、ごみ袋がいっぱいになってしまう。資源ごみ分別回収を今からやっておけば、生ごみは生ごみで分別できる。容器包装プラスチックの方が生ごみ

より多い。それが2020年からなんて遅い。ペットボトルは、ネットに入れて分別回収するなど、他の資源ごみは分別収集しており、同じように容器包装プラスチックも圧縮梱包すれば資源になるのにもったいないと思う。

(町田市)

町田市も15年くらい前から容器包装プラスチックの資源化を導入しようとしていました。しかし、地元の方との問題や、小山ヶ丘に建設しようとしたときは市の説明が不十分で、場所を決めて説明会に入ったため、できませんでした。今後はそのようなことがないように、プラスチック圧縮実験を市民の方と行い、実験結果を公表し、その上で新しい施設を検討した結果、この場所に決まりました。

(市民)

私は市外から引っ越してきたが、先進市に聞きに行けば、ある程度早く理解できるようになるのではないか。

(町田市)

市が事業を進めなければいけないとは思っているが、やり方も仕組みも協力いただかなければできないことをご理解いただきたい。

リレーセンターみなみでは、プラスチック圧縮梱包施設を、先行して整備し資源化する計画を立てています。予定では2016年から実施したいと考えています。おっしゃることは感じておりますが、ここは丁寧に進めていかざるを得ない経緯が過去からありますのでご理解いただきたい。

(市民)

燃せるごみとして収集して60%は燃やせるごみで生ごみは40%と、建設ニュース(vol. 6)に書いてあるが、生ごみをなぜ分別収集しないのか。分別装置はどの程度の規模で、どのように分別されるのか。

(町田市)

分別収集も視野に入れて検討してきました。都市ごみ生ごみだけを分別する仕組みを作ること自体、難しいです。みなさんに協力いただき、43万人市民が生ごみだけを徹底して分別していただければ可能だと思いますが、他市での失敗事例もあり、異物が入ってくる確率が高いので、検討した結果、機械で分別していくことになりました。機械選別装置の構造についてですが、昔の二槽式洗濯機の脱水機を横にしたような物が回って、遠心分離されて残ったものを集めて処理をする仕組みです。規模としては50トン規模です。機械選別装置については、実際に稼動しているところやメーカーへの聞き取りを行い、検討委員会のみなさんにも紹介しながら調べてきましたが、分別率は90%以上確保できることが実証されており、町田市も90%以上確保できると考えています。

薬品の話がありましたが、難しいところはありますが、まずは収集してきたものをそのまま機械選別にせず、危険物を判断するような仕組みを調査し、できないかどうかあわせて考えていきます。やはりごみを出す方のモラルにかかっています。可燃ごみの中に工具など異物が入られる場合もあります。そういうことを想定して、機械選別という方向性を出しました。

(市民)

プラスチックで杉並病が問題になった。多摩地域でもごみ処理施設建設で争いになった地域もある。住民がおとなしいからここで造るのでは住民はたまったものではない。ダイオキシンのときも黙っていて、新聞で騒がれて住民がはじめて騒いだ。都合の悪いことは隠し、なぜ事前に説明しないのか。やり方がおかしい。住民だっ

て、プラスチックのガスを出されたら嫌である。出されたら住民では対応できない。出さないよう対応してもらわないと困る。プラスチック圧縮ガスのデータを出して、説明するのが当たり前だと思う。後になって「公害でした。」と言われても困る。杉並だって、結局どうなったのか分からない。何で町田はここに建設するのか。

(町田市)

杉並の施設は、町田市が造ろうとしている施設と違い、燃やせないごみの圧縮処理施設でした。町田市の容器包装プラスチック圧縮梱包施設では、燃やせないごみの圧縮は行いません。

町田市では、2010年6月にプラスチック圧縮時にどのようなガスがでるのか圧縮実験を行いました。市内5地区の町内会自治会に協力をいただき、容器包装プラスチックを回収し、圧縮してどのようなガスが出るか実験しました。実験の結果は、トルエンやクロロホルムなどの揮発性有機化合物が基準値を超えて検出されました。実験結果を公開にしたのは町田市が最初であると思います。クロロホルムの発生原因としては、漂白剤の容器の中に液体が残っていて、圧縮したことによって発生したと考えられています。漂白剤が無ければ、基準を超えなかったと思います。万が一、こういう物質が発生したとしても、活性炭や光触媒などで除去できることが分かっています。実際に稼動している隣の多摩市の施設では、測定結果を公表しており、効果があることが実証されています。

ダイオキシンの問題は平成8年にありましたが、町田市としては隠してはおらず、その時点ですぐに公表して、対策工事を行いました。4号焼却炉は乾式集じん機がついており、ダイオキシンを安全に除去できることがわかったので、当時は4号焼却炉をメインに運転しました。しかし、1号から3号焼却炉については、そのまま運転してはダイオキシンの排ガス基準を超える可能性があったので、対策工事を行いました。

経過については、基準を超えた数字も含めて、みなさんにすぐにお知らせしています。広報が、どの程度行き届いたかどうかについては確認できませんが、広報などを使ってお知らせしましたし、「このような対策も行います。」ということもお知らせして来ました。一番はじめにいただいたご質問でも、市で勝手に決めてやってきたとお話されましたが、経過は必ずお知らせしてきておりますし、可能性があるかどうかわからないものについては分析をして公表を含めて実施してきました。今回の新しい資源化施設についても、町内会自治会の代表の方、周辺の代表の方、学識経験者と検討委員会で議論してきており、決して隠してはしていませんし、説明会などを開催し、ご説明する機会を設けてまいりました。

(市民)

建設ニュース (Vol. 6) の「教えてバイオガス化施設Q&A」には、臭いが漏れないようにしますと書いてあるが、臭いが出ているかどうかをどのような基準と機械で測定するのか。毎日測定するのか、住民から苦情が来た時点で測定するのか。

万が一、臭いが出た場合、誰が責任を持って対応するのか。安全性はもちろんだが、臭いについても近隣住民に一切迷惑をかけないということを、口頭ではなく文書として残して欲しい。文書は既にあるのか、あるとすればどこにあるのか、なければ今後、どういう形で残すのか、以上3点お答えいただきたい。

(町田市)

臭いが漏れない仕組みについてですが、バイオガス化施設は堆肥化施設ではないので空気を必要としない微生物の働きでガスを取り出します。イメージとしては密閉された鉄板の茶筒の中で空気を必要としない微生物の働きでガスを取り出すので、

基本的に臭いが出ない構造になっています。しかし、入ってきたごみを選別したり、ガスを取った残りの残さを乾燥させて焼却炉に入れたりするところでは、局所排気装置で空気を引き、焼却施設の燃焼空気に利用します。ですから、外に出る状況にはなりません。

臭いの測定については、臭気分析は定期的には行いますが、日常点検の中で確認していきます。苦情がきてからとは考えていません。日常点検の中で、臭いが出ている場所、出ているだろうと思われる場所がわかれば、すぐに対応していくことは考えています。

万が一、臭いが出た場合は、施設管理者の責任になります。臭いについて何らかの文章を残すのかということですが、地元の方や周辺にお住まいの方と、これから開催する地区連絡会の中で、焼却炉の排ガス、汚水、環境全般について文書を取り交わす予定はしています。

(市民)

資源ごみ処理施設の上小山田西部エリアについては、「ごみ処理施設を造る」というのと町田市の北部丘陵地域に対する基本的な計画と合致しないと思う。農業を中心とした緑の豊かな地域にするという基本計画を町田市は持っている。なぜこの地域にこの施設を造るのか明らかにして欲しい。それから、ごみ資源化施設地区連絡会はこれから作るのか。どういう組織、団体が入るのか。

(町田市)

資源ごみ処理施設の上小山田西部エリアには、北部丘陵地域が一部かかります。北部丘陵地域については、計画を進めていく中で支障あるかどうか検討委員会でも議論しました。資源ごみ処理施設ができることで、道路整備や鶴見川源流への影響がないか、どのくらいの距離を置けばよいかなど総合的に評価しています。これについては、実際に検討委員会の中で結果を出しましたが、北部丘陵整備事業担当と都市づくり部、建設部と、将来計画も含めてやっていけるのかどうか議論しました。その結果、候補地として考えているエリアは、保護するだけではまちづくりはできず、影響がないよう配慮した上で道路を整備することなどで地区が活かされるという方向性が出たのでここに経緯があります。北部丘陵整備事業と町田市の基本計画は何も変わっていません。具体的な建設地については、道路や将来的には交通網のことも視野に入れながら位置を決めていくため、場所は決定していません。

地区連絡会については、各施設周辺の町内会自治会代表の方等に集まっていただき、これからつくっていきます。今後、地区の役員の方たちと話を進めさせていただき、その中で代表の方を選んでいただき、地区連絡会を開催していきたいと考えています。

(市民)

トルエンのことが気になるが、先ほど脱臭装置をつけるということであったが、脱臭装置では「臭い」をとって、他は残るのではないか。脱臭装置をつけることによって濃度がどの程度下がるのか。脱臭装置とは臭いのことではないのか。

(町田市)

容器包装プラスチックを圧縮して出てくるものの中にトルエンがあるとお話ししました。プラスチックは石油製品であり、圧縮すると、石油に含まれているものが基本的には出ます。新しい資源ごみ処理施設では、トルエンのような揮発性有機化合物を活性炭で吸着除去する予定です。多摩市の資源化施設でも活性炭で吸着除去し、問題ない濃度まで下げられることはわかっています。

(市民)

町田市が農と緑の基本計画で、北部丘陵地域について決めている。道路を造っていくことなども大事であるが、あくまでも農と緑を基本にしたまちづくり計画にふさわしいものにしていく必要がある。資源ごみ処理施設をこの地域に造るのは適当ではないのではないかと思います。

資源ごみ処理施設の分散配置の考え方で8つの施設(①プラスチック圧縮梱包施設、②カン選別処理施設、③ビン選別処理施設、④ペットボトル圧縮梱包施設、⑤トレイ・紙パック貯留場所、⑥有害ごみ貯留場所、⑦製品プラスチック貯留場所、⑧使用済小型電子機器等貯留場所)が示されているが、3ヶ所のうち、どの地域でやるのか。上小山田西部エリアにはどのような施設が入ってくるのか説明してほしい。

(町田市)

8つの施設のうち、プラスチック圧縮梱包施設の処理量26.4トンのうち、5トンのリレーセンターみなみで処理することになっています。残りの21.4トンを上小山田西部と相原の2箇所それぞれ10トン強を処理する予定です。その他カンやビンなどについては、上小山田西部と相原で半々に分けて処理する予定です。現状ではプラスチックを3ヶ所、それ以外は2箇所に分けて処理します。

(市民)

1997年のダイオキシンや最終処分場の問題で、住民が何も分からない状態でいた頃と様変わりをしたと思っている。2006年のごみゼロ市民会議を受けて、廃棄物減量等推進審議会が行われ、審議会を私はすべて傍聴した。その後の施設整備の検討委員会の市民公募に応募して委員になった。私はこの施設でよかったと応援したい気持ちである。現在は全部のごみ処理施設が集まっているし、最終処分場については何の手当てもされずに放置されていた。

住民の反対の声に時間はかかったが、それから時間をかけて、2006年以降は着実に積み重ねて進めてきた。ビン・カンの施設では、近くを散歩すると夏場はとくに臭いがする。もっと分散化すればいいけれど、お金がかかる。そんな中で、3ヶ所にわかれるのは、住民の反対運動もある中で、市の職員も隠さずにやってきた、積み重ねてきた結果であると思う。私たちが出すごみを市が私たちの税金で処理をしている。ごみをいい状態で出そうという世論が必要だと思う。ぜひ、リサイクル広場も含めて、ソフト面をどんどん広げて欲しい。

それから、生ごみ処理機の普及もがんばってやる必要があると思う。小山田桜台でも最初は処理機に反対の声があったり、今でも新しく設置すると言うと臭いの問題で悩む人がいると思う。きれいな状態で出していけばごみは減る。市に対して指示するのではなく、私たちの税金で私たちのごみをどのように処理していくか自身で考えていくことが大事であると思う。町田市がプラスチック圧縮梱包実験をしたのは、市民の声があったからであり、私は今の職員を信じている。市民には、前倒ししてできるだけ資源化できることは資源化していくことが試されていると思う。資源化する知恵を市役所にもっと届けることを町内会単位でがんばっていただきたいと思う。

(市民)

バイオガス化施設で1日に発生するガスで、燃料にすると収集車31台分、電気になると一般家庭1,000軒分の電気がまかなえると書いてあるが、概算で計算するとガソリン、リッターあたりに換算すると3,800円分である。エコになんてなっていない。それから、排水についてだが、80%に加水して74%まで脱水すると、出てくる排水は少ないと言われたが、濃縮されて出てくるから希釈するしかない。平成7年に横浜市

はバイオガス化施設について検証していて、汚水処理の問題があるから、汚水処理場の近くでなければ造るべきではないという結論を出している。さらに生ごみについても事業系のものでないとうまくいかないだろうというレポートを出していて、市長は知っているはずである。なぜバイオガス化に固執するのか。バイオガス化施設は、どう考えても食物残さを処理する施設にはよくない。基本的にし尿処理に向いている。消臭は対応できるなどと言っていたが、八王子バイオマス・エコセンターは現在停止しているが、あれは脱臭ができなかったからである。そのエコセンターのメーカーが説明していた脱臭方法は活性炭処理である。確かに臭いをとることはできたが、2週間程度で活性炭の効果はだめになった。活性炭を交換するとおおよそ1,800万円かかる。

活性炭のために働いてるような格好になってしまい、失敗した。町田市の剪定枝資源化施設では毎年1億円投入して処理している。かっこばかりつけて毎年1億円もかけないとできないなんて意味がない。コストという問題は絶対にある。「エコになれば、いくらかかってもよい。」などきわめて迷惑である。必要な施設には掛けるけれど、よほど慎重にしていきたい。

(市民)

今の方に賛同である。私はバイオが好きだが、生ごみ処理は難しい。どの地域でも苦労しており、金もかかっている。うまくいっているのはし尿処理や牛や豚家畜ふん尿単独ものを処理する場合であり、バイオガスの管理ができる。生ごみの分別を町田市民がどれくらい協力できるのかという課題がかかってくるが、バイオガス化施設は、おそらく金かかり虫だと思う。それよりも、高効率の焼却施設を建設し、煙突を高くして拡散した方がよほど地域住民のためにもコスト的にもいいと思っている。バイオガスは近代的であるし、いいと思うが、町のごみ処理方法としてはかえってたいへんだと思う。

忠生地区住民説明会 会議要旨

開催日時：2013年8月31日(土) 18時00分～19時30分

開催場所：町田リサイクル文化センター

参加者：42名（対象：根岸町内会、忠生自然自治会、都営忠生三丁目自治会、忠生中央町内会、忠生忠霊地区自治会、忠生四丁目町内会、桜美林台自治会、馬駟自治会、東馬駟自治会、もみじ台町内会、矢部町町内会、ライオンズガーデン町田の丘自治会、函師町ヒルサイド町内会）

《次第》

1. 新たな「ごみの資源化施設」について

2. 質疑応答 18：30～

〈配布資料〉

資料1：新たな「ごみの資源化施設」の建設地周辺にお住まいの皆さんと話し合いを進めます。

資料2：ごみ資源化施設建設NEWS (vol.5～7)

質疑応答

(市民)

画面に示された新しい施設の配置図が、見えづらい。図を配布すべきである。

(町田市)

現在、メーカーに調査をしている状況で、施設の配置図はその調査の中で出てきたものであり、少しお見せしましたが、これまで行った説明会ではほとんど出していない。本日はあくまでもイメージとしてみていただきたい。

(市民)

予算額が200億円ということだが、それだけでできるのか。2,000億円ならわかるが。

(町田市)

200億円という金額については、メーカーアンケートの見積もり金額です。この金額の中で建設していくということでご理解いただきたい。他市の事例を見るとほぼ同様の金額で建設されているので、町田市もその範囲でできるだけ低い金額で建設していこうと考えています。

(市民)

完成時は、もっと金額が跳ね上がるのではないか。

(市民)

このような施設は、必要な施設であり反対はしないが、今の説明だけ聞くと、上から目線である。排ガス等の基準を守るのは当然のことである。それよりも、この地域について、どのようなまちづくりをしてもらえるのか、どう住みやすくしていただけるのか、全く説明がなかった。春に行った室内プールでの説明会に出した要望は、伝わっていないのか。

(町田市)

他の地区と条件を同じにさせていただくため、申し訳ありませんが、現時点では、ここまでのお話しかできません。

(市民)

この地域は施設を受け入れる地域である。もう少し丁寧な説明が必要なのではないか。

(町田市)

まちづくりへのご意見は、本日お越しいただいた地区以外の方からもいただいています。今日、そのまちづくりについて、他の地区の方と同じご説明にするため、「こう考えていきます」と具体的にお話をしていませんが、実際に様々なご意見をいただいております。市では案を作成中です。それをお出しするタイミングは、今日みなさんにいただいたご意見も踏まえて、お出ししていきます。

(市民)

そうであるならば、市はどのように取り組んでいるのかだけでも、気持ちを伝えてほしい。

(町田市)

地区のご要望は色々いただいておりますが、地区の連絡会で、地区の代表の方にお集まりいただいて、その中で提案をさせていただき、具体的な議論していこうと計画しています。

(市民)

説明会には始めて参加した。概略設計中ということだが、説明だけでなく、概略でもいいので図面とスケジュールが手元に欲しい。それから、地区連絡会のメンバーは、どのように選ばれるのか。また、いつ、どのように意見が設計に組み入れられていくのか。

(町田市)

まだ、メーカーにアンケートをとっている段階であり、これから設計に入るところです。ですので、まだ他の地区の方にもお見せしていませんので、図面は例として出しており、検討はこれからです。スケジュールについては、お手元の資料の下の方と、ごみ資源化施設建設NEWSの下に大まかなスケジュールはお出ししています。今、現在はこスケジュールにそって進めています。

それから、この地域の地区連絡会のメンバーについては、ベースとなるのは、忠生地区連合の加盟町内会・自治会に相談させていただきながら進めています。15名程度を自治会・町内会の中から選んでいただくメンバーで進めていこうと考えています。

(市民)

私は、町田リサイクル文化センターの隣接地を所有しており、地区連絡会のメンバーに入れてもらいたい。どのようなものができるのか気になる。メンバーについて自治会長だけではなく工夫してほしい。

(町田市)

メンバーについては、自治会の中で決めていただければと考えておりますので、自治会の中でご意見を出しただければと思います。

(市民)

具体的に町田リサイクル文化センターの敷地には、新しく焼却炉2基とバイオガス化施設ができるのか。何ができるのかよくわからない。

(町田市)

町田リサイクル文化センターには、焼却施設、不燃・粗大ごみ処理施設、バイオガス化施設の3つの施設を一体で整備します。

資源ごみ処理施設は、相原と上小山田西部と既存施設のリレーセンターみなみ内に整備する予定です。

(市民)

そうすると、町田リサイクル文化センターの建屋はなくなると思うが、その壊す金額も含めて200億円か。

(町田市)

費用は、焼却施設、不燃・粗大ごみ処理施設、バイオガス化施設3つの整備にかかるメーカーからの金額です。ですので、施設の解体費用は含んでおりません。

(市民)

わかった。新しい施設が建った後、跡地はどうなるのか。

(町田市)

現時点では、正直なところまだ白紙の状態です。先ほど申しあげました地区連絡会の中で、みなさんと話を進めていこうと考えています。

現在の施設は、新しい施設ができて安定稼働した後に、解体します。もちろん解体には、安全を最優先したスケジュールを組んで、調査・分析を行いながら進めます。

(市民)

跡地を、住民に使えるようにする予定は無いのか。市で使うことになっているのではないか。

(町田市)

いいえ、周辺地区連絡会と市で、周辺の方々のご意見をいただきながら決めていきます。

(市民)

配置図によれば、花の家の方に移す計画となっているが、圧迫感が大きいのではないか。今の施設は森に囲まれており、目立たないようにしている。技術は進んでおり、排ガスが規制値を大きく下回るのは当たり前であり、我々地域に住んでいるものに圧迫感無く、住民が受け入れられる設定をするかということが大事なのではないか。一番大事なのは、場所の中での立地である。例えば、過去に焼却灰を埋めたところに建てるという案は考えなかったのか。敷地の前の方に出て来られても困る。

(町田市)

そのようなご意見が出るのは当然と考えています。

しかし、最終処分場は、過去に灰を埋めたところであり、その上に建物を建てるということは、最終処分場の閉鎖ができていない段階ではできません。それから、過去に埋めたものが安定化していないと難しいです。物理的に制約がございまして、最終処分場に施設を造ることは難しいです。

ただし、森も山もあり、そこを削って低くして造るということは、ひとつの案として、これから検討していきたいと思います。費用の面と、山を削ることとの兼ね合いも含めて、今、調整はしていますが難しいところがあります。

正面に大きいものができるというイメージを、できるだけ払拭したいので、レイアウトや高さ・形をこれから検討していきたいと考えています。

(市民)

今、費用の話が少し出たが、焼却施設とバイオガス化施設を造るということだが、全体のエネルギー量は同じであるので、あえてバイオガスにせずとも、燃やして発電することで全体の建設費用は抑えられるし、トータルでは何も変わらないのではないか。バイオガス化施設は要らないのではないか。

(町田市)

他の説明会でもそのような意見をいただいています。生ごみは、8割、9割が水分であり、生ごみ単体で焼却炉に入れても水分を飛ばさなければ燃えません。乾燥の

ためのエネルギーが必要になります。現在は、そのエネルギー分も排ガスとして排出されています。計画しているものは、バイオガス化した後、脱水して焼却することで、その分CO2が削減されます。全量焼却がいいかということ、そうではないことをご理解いただきたい。

それから、なぜバイオガス化施設かということのポイントになっているのは、東日本大震災のとき焼却施設は停止しました。焼却施設は、ごみがあれば発電しますが、緊急停止をかけると、立ち上げるためには電気が必要となり、電気を買って、動力として立ち上げないと、通常の焼却はできません。しかし、バイオガス化施設は、微生物が勝手にガスを作りますので、このガスを発電にまわすことができ、焼却炉の動力の一部に使うことができます。焼却炉の動力には非常用発電機がありますから、それをあわせれば、外から電気を買わなくても焼却炉を立ち上げることができます。ごみが安定して処理できるところも含んでいます。このようなことから、バイオガス化施設を検討しています。

(市民)

資料を見ると、バイオガス化施設は、全国的に見てもわずかな数しかない。現実的に、施設そのものに問題があるのではないか。それから、私の家では、以前、市が募集して配られた生ごみ処理機を利用しているが、90%以上処理されている。各家庭でもっとできるのではないか。厳しい財政事情の中で、こういった施設よりも、地区の環境整備にお金を回してほしい。重ねて言うと、地区の環境整備の話が聞けなかったのは非常に残念である。

(町田市)

環境整備の話ですが、環境資源部だけ環境整備をするのではなく、町田市の各々がそれぞれ役割を担って、今回の建設について、部が集まった組織を作りました。いただいた意見を吸い上げて、まちづくり、環境問題等に取り組んでいくため、市長を本部長、副市長を副本部長として、町田市の全ての部で対応していこうと考えています。説明会で意見をいただいて実際に行動に移していきます。

それから、バイオガス化施設について、下水汚泥、家畜の糞尿対象としたものについては、昭和40年代くらいから続いており、全国で500箇所以上ある。家庭の生ごみだけを対象とした施設は資料の程度の数であるのご理解いただきたい。

(市民)

今回、町田市がやるのは家庭からの生ごみだけなのではないか。話をすり替えてもらっては困る。

(市民)

バイオガス化施設については、効率化の面、採算性がないものと聞いている。南大沢の施設は臭いがひどく閉鎖している。その辺はきちんと対応してもらえと思うが心配である。2016年度実施設計の予定となっており、時間がなく、危惧している。

(町田市)

町田市で計画しているバイオガス化施設は、嫌気性発酵という方式であり、酸素を必要としない微生物が処理するため、外気とシャットアウトした状態で処理するので、基本的に外部には臭いは漏れない構造です。ただし、とくに搬入したごみを降ろすところなどは、臭気対策に配慮した構造にします。

南大沢の施設は、好気性発酵といいまして、酸素を必要とする微生物の働きで、生ごみをたい肥化する施設であり、空気を与えます。その臭気が外部に漏れやすい

構造で、脱臭設備は配慮されていたと思いますが、今回、停止という結果になってしまったという状況です。町田市は、基本的にシステムが違うものを考えています。

補足しますと、南大沢の施設は、例えば、外で生ごみを撒いて、かき混ぜながら発酵させて堆肥を作るところに建屋をかぶせたようなものです。町田市が計画しているものは、イメージとしては茶筒を横にして密閉した状態で、微生物がガスを作ります。建物の中というより、鉄製の筒の中で発酵させるので、臭いは基本的に外に出ません。ただ、ごみを受け入れる場所や、その後、ガス回収後の残さを脱水したり処理する場所では臭いがでますので、脱臭設備を設置します。実際に稼動している施設を見に行ったり、調査したり状況を確認しておりますが、建設にあたっては、臭気対策など対応していきます。

(市民)

無駄なガスはどのように処理されるのか。それから貯蔵の圧力はどれくらいを予定しているか。災害などでガスが漏れたとき、圧力が高ければ爆発すると思う。

(町田市)

余剰ガスについては、燃やします。

メタンガス自体は、空気よりも軽いので万が一漏れたとしても、上空で拡散して火がつくことは基本的にはありません。ご家庭で使われているメタンガスを主成分とする都市ガスの方が圧力は高くなります※1。バイオガスで物を煮炊きするくらいのエネルギーはありません。

それから他の物質ですが、硫黄の臭いがするものは必ず出ますが、発酵槽から出たところで除去するよう整備マニュアルで示されています。異物は、例えば洗浄するなどして除去します。

爆発については、東日本大震災のときでもバイオガス化施設が爆発した事例はありません。千葉県内の施設で天然ガスのタンクが傾いたことで配管に亀裂が入り、そこからガスが漏れて火災になった事例はありますが、バイオガス化施設でそのような事例は、今回の震災も含めてありません。

『追記』※1

バイオガス貯蔵施設の圧力はおよそ0.5キロパスカルです。

なお、ご家庭の供給ガスの圧力は、一般ガス供給約款（東京地区等）によると最高圧力2.5キロパスカルですので、それよりも低い圧力です。

(市民)

メタンだけでなく、ブタン、プロパン、エタン等炭化水素が出てくると思うが、その比率はどのくらいを想定されているか。

(町田市)

バイオガス成分は、6割がメタンガスで、残りのおよそ4割が二酸化炭素です。硫化水素などはその1/1,000程度など低い濃度です。メタン生成菌の働きで作るものであり、プロパン、ブタン、エタンは生成しません。

(市民)

大きい施設をいきなり造らず、実験施設は造らないのか。実験して、例えば家庭ごみの分別がうまくいくのかどうか、施設がうまく動くのか検証しないのか。

(町田市)

実験プラントを造り検証することは考えていませんが、町田市で発生した、燃やせるごみを使って実験を行っています。その実験というのは、燃やせるごみを機械選別機にかけて、生ごみなどを主に取り出すことができるかどうか、その選別効率をまず確認し、それから選別された生ごみがきちんとガスを出すことができるかどうか、試験をしました。

その結果、選別効率は9割以上選別できていることを確認し、またバイオガスの発生については環境省が出していますメタンガス施設の整備マニュアルに則ったガス量、ごみ1トンあたり150m³をクリアしていることを確認しています。

メタン発酵は、生ごみと汚れている使用済みのティッシュペーパーなどの紙ごみをバイオガス化施設に入れ、エネルギーを取り出します。それ以外のものは基本的に焼却します。取り出したバイオガスは、例えば地域循環バスの燃料や発電に使います。

また、現在稼働している他市町村の施設のデータを調査することで実証実験と同等の成果が得られると考えています。これが失敗したらどうするのかというお話ですが、町田市では可燃ごみの組成を毎年調査しており、全国の施設でもデータを持っています。もし、きちんと動いていない施設があれば、どうして動かなかったのか調査もしています。ですので、何の調査もせず、何の状況確認もせずに造るということではありません。わざわざ設備を造って実験にコストをかけなくても必要なデータは得られると判断したので、今回、バイオガス化施設は実験プラントを造らずに事業化を進めて行こうと考えています。

先週8月21日に、京都市では500トンの焼却施設と60トンのバイオガス化施設を組合せた施設が落札されました。(2018年度完成予定。)人口150万人の京都市でも、災害など何かあったときに焼却できなくなってしまうこと、また地元の方にとってもエネルギーを取る施設にご理解をいただいた上で、まちづくりもやられています。町田市もそこを参考にしたいと思っています。 - 6 -

(市民)

バイオガス化施設の発酵槽と、ガス貯留設備の大きさはどれくらいか。

(町田市)

発酵槽は、お手元の建設ニュースに掲載されている南但クリーンセンターの例では、横置き形で直径が7メートル、長さ40メートル弱です※2。

もうひとつ、ガスホルダー・ガス貯留設備は、その中にガスを常時大量に貯めて使うというイメージではありません。ガスを精製して、すぐに燃料にしたり発電したりするのもいいですが、その前に一時的にストックするという設備です。燃料タンクのようなものではなく、一時的に貯留するタンクです。タンクは、円柱形をイメージしていただくと、どんなに大きくても10メートル以内です。それをそのままむき出しで使っているところは長岡市があります。南但クリーンセンターは、ゴムのようなやわらかい素材に鉄製のカバーをかぶせて、ふたをして外からボールが見えない貯留設備を造っている施設もあります。

『追記』※2

南但クリーンセンターの発酵槽の大きさは、正確には、直径6.4、長さ32メートルです。また、ガス貯留設備の大きさは、直径約6メートル、高さ約8メートルの円柱形の鋼製タンクの中に、ガスバックが入っています（鋼製被膜型メンブレン式）。ガスが入ると、中のガスバックが膨らむ構造になっています。

また、長岡市の生ごみバイオガス化施設の貯留設備は球形をしています。外側の直径は約13.7メートル、高さ約12.2メートルの球体の二重膜（ダブルメンブレン）式を採用しています。外側と内側のメンブレンの間に空気を供給することで、内側に貯留されるバイオガスの圧力を調整するとともに、内側のメンブレンを保護する構造になっています。

(市民)

町田市では、どのような設備を考えているのか。

(町田市)

まだ概略の段階であり、これから決めていくことになりますので、どういう形になるかはこの段階では言えませんが、ガスホルダーがむき出しにならないようにはしたいと考えています。それから、発酵槽が高い位置にあると、環境への影響や感覚的にも問題があれば、できるだけ下の位置に造りたいと考えており、できるだけ外から大きいものが見えないレイアウトにしたいと考えています。

(市民)

焼却したあとの熱エネルギーの使い方はどのように考えているのか。

(町田市)

現在は、市立室内プール、ふれあい桜館、温室に使い、残っている分は、焼却施設で発電も行っています。室内プールはこれまでどおりの計画です。

(市民)

出たエネルギーを全て使い切っているのか。

(町田市)

発電して工場で使い、残った分は、外部に売却しています。新しい施設での使い方については、地区連絡会の中で話し合いをさせていただいて決めていく計画です。焼却炉の熱を使って温水と電気に使っています。ごみを燃やすと熱が出ますが、それで蒸気を作って、花の家や室内プールの熱源に使っています。それはこれからも継続していきます。それから、発電ですが、水を温めて出た蒸気で発電機を回して、施設の中で使っています。1日65,000 kWくらい発電し、内10,000 kWくらいは所内で使わないので、外に売っています。

(町田市)

そういう分を例えば地域冷暖房にするとか、近隣住民に分ける発想は無いのか。

(町田市)

そのような計画も実際にやっているところもありますが、法的制約があります。例えばこの清掃工場が作った電気を売るというのは、まだ直接的にはできません。地域冷暖房という計画も意見としては出ており、検討はしていきたいと思いますが、連続的に安定供給するだけの電力は、250トン規模の焼却炉では厳しいと思います。頂いたご意見は参考にしていきたいと思っております。

(市民)

南但クリーンセンターの写真を見ると、かなり「工場」というイメージがしてしまうので、先ほどの立地もそうだが、具体的な話を住民にできるだけ早くしてもらいたい。あわせて地域のまちづくりにどう対応してもらえるのかも含めて示してほしい。

(町田市)

町田市の施設については、その立地の条件として近隣に住宅があり、道路があり、生活道路があり、写真にあるような外観は考えていない。地区連絡会、周辺の方の意見もいただきながらレイアウトも含めて考えていきたい。頂いたご意見は環境資源部だけでなく、町田市役所全ての部で連携と取りながら、方向性を出していこうと思っています。

また、説明会につきましては、忠生地区につきましては、今回で全ての自治会・町内会地区のみな様に私どもの方からお話させていただいたと思っていますので、これかからは概略設計の話、そしてご意見を踏まえた会を運営していくことで、いろんなご意見をお聞きしていこうと思っています。

(市民)

埋立地の将来像は、今はどうなっているのか。

(町田市)

町田リサイクル文化センターに隣接している埋立地は、旧埋立地と呼ばれるところと、池の辺、峠谷と呼ばれている埋立地があります。竹桜地区をはじめ、周辺の方からは、何でも埋めていたところはどのようにするのかというご意見をいただいています。旧埋立地については、どのようなものがどの部分にどのように埋まっているか調査をします。調べた結果、それをどのように処分したらよいか、方向性も計画中です。出てきたものを安全に処理する、または完全に焼却した方がよければ焼却するとか、出てきたものによって処理をしていく方向で動いています。それとあわせてこちらの焼却設備の更新ですので、最終処分場は管理型の処分場（池の辺・峠谷）を残して、過去に埋めたものは基本的には除去して、それができたら閉鎖をしていく予定です。閉鎖したら、管理型の最終処分場と、ごみを取り除いた旧埋立地にはたぶん土を入れていくこととなりますが、跡地利用については、地区連絡会や周辺の方々のご意見を聞きながら、今動いている焼却施設の跡地とあわせて、どう使ったらよいか方向づけをこれからしていきます。

(市民)

バイオガス化施設のことで、生ごみを機械で選別するとの話だが、汁が漏れるので生ごみはビニール袋に入れて出しているが、プラスチックの分別も始まるとの事であり、生ごみをビニール袋に入れて出せばいけなくなるのか。

(町田市)

これまでと同様に「燃やせるごみ袋」で出していただければ結構です。生ごみだけを出していただくことは、今は考えていません。ただし、生ごみは水を切っていたきたいです。その水が、結局は脱水の排水量や焼却にも影響するので、三角コーナーなどで必ず水を切っていただいて、それから燃やせるごみの袋で出していただけたい。